



イベント
フォトギャラリー

わったー まちの話題

4月1日 坂田こども園が開園しました！



本町で初めてとなる公私連携幼保連携型認定こども園「坂田こども園」の開園式・入園式が行われ、3～5歳児の計108名の園児が入園しました。

坂田こども園は、これまでの町立坂田幼稚園の教育方針と園舎・園庭を引き続き活用しながら、学校法人大庭学園が設置・運営を行います。

崎原町長は開園を祝い「小学校や地域、保護者と連携しながら、『こどもを第一に]考える坂田こども園をともに作り上げていきます」とあいさつをしました。

引き続き行われた入園式で仲吉美奈子園長が「みんなで元気いっぱい楽しみましょう！」とあいさつすると、園児たちは大きく元気な声で返事をしていました。



【施設概要】
 運営法人 学校法人大庭学園
 所在地 西原町字翁長626番地の1
 定員 135名（教育認定38名・保育認定97名）
 開園時間 7時15分～19時15分
 休園日 日曜、祝日、慰霊の日、年末年始
 給食 外部搬入（アレルギー除去食対応可）

3月 68年間の思い出をありがとう！ 坂田幼稚園 令和5年3月閉園



地域や保護者に支えられ、これまでおよそ6,000人の園児が巣立った町立坂田幼稚園は、子育て世代の保育ニーズの高まりや幼児教育環境の更なる充実を図るべく、令和5年3月をもって閉園となりました。

昭和29年、2園目の西原村立幼稚園として現在の翁長地域に創立された坂田幼稚園は、「かしこい子」「やさしい子」「つよい子」を教育目標に掲げ、遊びを通じた学びの中で小学校就学に向けた基礎的な力を育み、多くの「坂田っ子」を輩出してきました。

3月15日に行われた、坂田幼稚園としての最後の卒園式で、崎原町長から卒園する74人の園児に向け「坂田幼稚園は、町立の4つの幼稚園の中で最も園児の数が多く、お友達や教育環境に恵まれた幼稚園です。多くのお友達や先生方と過ごせた坂田幼稚園でのたくさんの思い出は、きっとみなさんの一生の宝物になると思います」とあいさつをしました。

68年にわたり、坂田幼稚園の運営にご協力いただいた地域・保護者の皆様、また、子どもたちの健やかな成長を支えてくれた歴代の先生方に「心からのありがとう」をお伝えし、坂田幼稚園は幕を下ろしました。

※坂田幼稚園は、令和5年4月1日から「坂田こども園」に移行しました。

3月13日 東京大学 現役合格！！

東京大学（理科一類）に現役合格した開邦高校の前田春樹さんと父朋哉さんが崎原盛秀町長を訪ね、合格を報告しました。

春樹さんは西原東小学校、西原東中学校卒業後、開邦高校へ進学。高校では弓道部として部活に励み、生徒会長も務めていました。

崎原町長は「素晴らしい快挙。文教のまち西原の誇りである。これからの活躍を期待しています」と祝福しました。

春樹さんは「周りの支えがあって、自分を信じて頑張ってきた。合格できてほっとしました。将来は研究者になりたいです」と抱負を話しました。



4月6日 コロナ後の未来のために 南西石油(株)・太陽石油(株) 寄附金贈呈式



太陽石油(株)と南西石油(株)から西原町「新型コロナウイルスいまー募金」に合計200万円の寄附金の贈呈がありました。

南西石油株式会社の村上 統 代表取締役社長は「地元企業として西原町の発展の一助になれば幸いです」と思いを語りました。

崎原町長は「コロナ禍の影響を受けた方の支援や人材育成に活用していきます」と感謝の意を述べました。

4月3日 企業版ふるさと納税（人材派遣型） 第一生命保険(株)から西原町職員に！



民間企業から人材派遣を受ける「企業版ふるさと納税（人材派遣型）」を活用し、第一生命保険(株)から比嘉利佳さんを西原町職員として迎え入れました。この取り組みは西原町初、県内2

例目となります。崎原町長は「企業のノウハウを活かし、まちづくりの発展や課題解決に尽力してほしい」と激励しました。

比嘉さんは「これまで培ったスキルや経験を活かして西原町のために頑張ります」と意気込みを語りました。

比嘉さんの任期は2年間となっております。官民連携事業と地方創生事業の推進に取り組んでいきます。

4月5日 児童の安全を願って



いかにない
 のらない
 おおごえをだす
 すぐにげる
 しらせる

西原町交通安全推進協議会（崎原盛秀会長）からランドセルカバー、浦添地区交通安全協会（多喜和彦会長）から交通安全反射材付巾着、浦添地区防犯協会（大宜味朝雄会長）から「いかのおすしクリアファイル」が、町内4小学校の新1年生へ寄贈されました。

新島悟教育長は「毎年、寄贈していただき感謝している。新たに入学する241名の新1年生が安全・安心な学校生活を送れるように活用します」と述べました。

4月11日 恒久平和のために 西原町遺族会 寄附金贈呈式



西原町遺族会が令和4年度をもって創立70年の歴史に幕を下ろしました。

遺族会の解散に伴い、本会の財政調整基金の寄附金贈呈式が行われ、西原町・西原町社会福祉協議会・西原町老人クラブ連合会へ合計2,680,973円が贈呈されました。

玉城弘昌会長は「遺族の福祉を支援することを目的に創立し、70年を迎えたが、会員の高齢化のため解散することとなりました。これまで遺族会の活動にご支援ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます」と述べました。

崎原町長は「長きに渡り、遺族の皆様のためにご尽力いただき大変ご苦労様でした。遺族会の思いをしっかり受け止め、平和の大切さを後世に伝えられるよう、平和事業に活用していきます」と感謝の意を述べました。

文化財

沖繩戦時下の西原

「西原は激戦地だった」という話は、西原町で育った方なら聞いたことがあると思います。沖縄戦当時の西原はどういう状況だったのでしょうか。

昭和二〇年、米軍は、三月二六日に慶良間諸島へ、四月一日には沖縄本島の北谷・読谷の海岸から上陸しました。この時、日本軍は、水際での交戦を避け、首里城下の軍司令部を中心として、浦添―宜野湾―西原―中城の丘陵地帯に陣地を敷き、持久戦に備えていました。米軍は上陸開始から八日後には日本軍司令部を目指して宜野湾の嘉数を始めとした、日本軍の主要陣地へと進出していきます。

西原には、石部隊（昭和一九年八月から駐屯）や、榴弾砲等の大砲を備えた砲兵部隊があり、四月上旬以降、上原や棚原、幸地で熾烈な戦いとなっていきます。四月二三日夜に日本軍は、戦線整理を行い、石部隊は浦添の前田へ移動し、山部隊が西原に配置されますが、この時前田へ移動した石部隊の戦力は二分の一以下になっていたようです。五月四日には、日本軍の総攻撃が行われ、西原においても、幸地・棚原・翁長・呉屋・小波津一帯で戦闘が展開されます。しかしこの総攻撃は失敗し、西原では山部隊の将兵二千のうちの生存者が約百



1945年（昭和20）年連玉森が見える空中写真【沖縄県公文書館所蔵】



幸地より出土した九六式十五糎榴弾砲 ※現在は中央公民館裏に展示

激戦地西原。七八年前の四月から五月にかけてのまさにこの時期の中部戦線における一進一退の攻防戦は、米軍戦史でも「戦史上もっとも熾烈な血みどろの戦闘」と表現される程で、米軍は宜野湾の嘉数から首里城までのたった五キロを約一カ月半かけたことになりました。その渦中に西原があったことを、忘れてはなりません。

参考資料…「西原町史」第一巻「通史編」／西原町教育委員会・「戦史叢書沖繩方面陸軍作戦」／防衛庁防衛研究所戦史室

お問い合わせ 文化課 文化財係 ☎944-4998